

作業所に訪れる人たちに温かい料理と笑顔を

—『守山つくしの会』—

ここに障がいを抱えた人たちが自分らしくいられる居場所を目指し、活動を行っている社会福祉法人「もえの会」。その「もえの会」が運営している「萌作業所」を訪れる人たちに、温かい家庭料理の昼食を提供するボランティア団体「守山つくしの会」の長谷川里子さんにお話を伺いました。

ここに障がいを抱えた人に憩いの居場所を
萌作業所は、精神障がい者の方の就労支援や軽作業、またレクリエーションなど憩いの場の提供などの運営をしています。そんな萌作業所のオープンキッチンで、トントン、コトコトと大忙しで料理をしている女性が、今回お話を伺った「守山つくしの会」の長谷川里子さんです。萌作業所設立当初から20年以上に渡って、ここに障がいを抱えた人たちに温かい家庭料理を提供し続けています。

「みんな穏やかな子なの」と話す長谷川さんは、会の設立当初から現在に至るまで活動を続けています。「精神障がい者」という言葉はメディアなどを通じてイメージだけが独り歩きしてしまい、偏見を持たれやすいのが現状だと思います。ただ実際は、20年以上の活動の中で一度もトラブルもなく楽しく活動を継続できたと話します。また健常者の犯罪率に比べて10分の1以下というデータも発表されているとのこと。取材当日、私も利用者の方から気さくに声をかけてもらえるなど、穏やかで優しい印象を受けました。

長谷川さんは、ご友人から「精神科の病院を退院された方の憩いの居場所づくりを手伝ってもらえないか?」という相談をされたのが設立のきっかけだったと話します。後に活動場所になる萌作業所の設立にも尽力され、3年がかりで物件も探されたそうで

す。そんな苦労の末、第1回目に作った料理は、人数の調整がしやすいようにカレーライスにし、3人の方が参加してくれたと当時のことを嬉しそうに話してくれました。

優しさが詰まった家庭料理

現在、守山つくしの会には40代～70代の女性11人が所属しています。多くの方は、パートなど仕事の傍ら、空いた時間を利用してボランティアを行っています。月に一度ボランティア会議を行い、1か月のメニューや担当を決めます。みなさん、自分の都合の良い日など無理のない範囲で決めているとのこと。

昼食作りのボランティアは平日に行きます。通常ボランティア2人ペアで行い、朝10時に人数を確認するところから始まります。人数を確認した後、近所のスーパーへ買い出しに行き、11時前に調理を開始します。12時の休憩に合わせて、毎回20人分程度の昼食を用意します。当日に人数確認から、買い出しも行い、材料はその日に使い切るなど、毎日家庭で料理されているからこそその手際の良さにびっくりしました。

取材に行った時間はちょうど料理の最中で、24人分のたくさんの料理を2人で手際よく作られていました。この日のおかずは、けんちん汁、胡麻和え、冷奴にフルーツと、たっぷりの野菜にフルーツも入った栄

養満点でヘルシーなメニューでした。

料理ができあがる頃、利用者さんたちは作業所の仕事を一区切りし、テーブルクロスを敷いたり、料理を運んだりして、みんなで昼食の準備をします。今回、私も一緒に昼食をいただいたのですが、どれもおいしくて優しい味でした。萌作業所を訪れる人たちは単身の男性が多く、彼らにとっては、野菜たっぷりの優しい家庭料理を味わうことができるのは、とても貴重なことだと思います。

またオープンキッチンでワイワイしながら料理をすることも、利用者さんたちにとっては家庭を感じることのできる時間であり、声を聞き、匂いを嗅ぎながら出てくる料理はより親しみを感じることができるのではと、長谷川さんは言います。

地域の人たちとの懸け橋

守山つくしの会では昼食作りボランティア以外にも、年に1回、地域の人たちに向けて、萌作業所を会場として音楽団体などと呼んで、コンサートなどの催しを開催しています。普段、繋がりの少ない近所の人たちにも、活動を理解してもらおうきっかけになっています。今では楽しみにされている方も多く、毎年70名近い地域の人が訪れるそうです。今年も落語会を行う予定になっています。他にもバザーを行うなど地域活性化にも一役買っています。

ボランティアを続けてきて

ボランティアを続けてきて良かったことは何ですか?という質問に、「食中毒といった大きなトラブルを一度も起こすことなく、74歳になる今も元気に楽しく活動ができていることが、ボランティアを続けてきて良かったこと」と言います。みんなが食事を待っていてくれるから、風邪をひけないことも

元気の秘訣だといえます。本当にハツラツとお元気で、とても74歳には見えない素敵なお方で、周りまで明るくする雰囲気があります。また家族の理解もあったことも続けてこられた理由だといいい、今までずっとボランティアをさせてくれたご主人にも感謝しているとのことでした。

こんな感謝の気持ちと優しさに溢れた長谷川さんは、多くの萌作業所に訪れる人にとって故郷のお母さん的な存在なのだと思います。守山つくしの会が作る料理は、そんな温かい人達の優しさが、料理にも表れているからこそ、今日もみなさんが楽しみにしているのだと思いました。



長谷川里子さんと萌作業所施設長の太田誠さん

取材を終えて

長谷川さんをはじめとして、守山つくしの会のみなさんは優しさとボランティア精神に溢れ、自分たちのペースで無理のない範囲で楽しく活動を行っています。会では、随時ボランティアの募集を行っています。今回の取材をきっかけに精神障がい者に対する偏見を少しでも取り除いて、多くの人に興味を持っていただけたら幸いです。

Information

社会福祉法人 もえの会
就労継続支援B型 萌作業所
〒463-0045 名古屋守山区菱池町5-14
TEL/FAX: 052-793-8384
E-mail: moe-sagyousyo@s5.dion.ne.jp
ボランティア「守山つくしの会」は上記連絡先になります。



手際良くたくさんの料理を作ります



栄養満点 優しい家庭の味です



みんなで一緒においしくいただきました